

吉川 1,400位ですかね。

谷 ちょっと多めに書いてあるかも知れませんが。

河野 あれになさるのであれば、字数とか何とかをそれぞれ何字というような形でやった方がいいんじゃないかな。そうすると、製本にしたりする時に、それを使えるというのは、安い本ができるという一つのファクターになるんですけども。

吉川 過去にもこういうプロジェクトで印刷物になったものの例はあるんですか。

河野 日照権の研究を2年位して、それは活字で組んでちゃんとしまして、それで大分金もかかりましたけれども。

谷 今は、ワープロで打ったのをそのまま版下で製本できますから、そんなにかからないと思います。

伊藤 そのへんは、編集は私やりますから、とりあえずテキストで打って頂くか、もしくは手書きで書いたものでも誰かに打たせて、テキストさえあれば体裁は整えますので。

あと、インタビューがまだこれからなので、特にこのへんを吉川さんの方に中心でと思っていますので、私の方で東京の方は本当に見ますから、吉川さんのそういうのを合わせて一緒に、小出さんとか藤野さんとか倉田さん、この辺りは御一緒頂きたいのと、山口先生は奈良にいらっしゃるんですね。

谷 ええ、私行きます。

伊藤 西山先生はちょっと私面識がないので。

谷 西山さんは、私が行くときにセットします。

伊藤 ですから、そのへんもありますので、吉川さんの方になるべくお時間を合わせますので、お顔を出して頂きたい。

吉川 いいですよ。テープ起こしはどうするんですか。

谷 テープ起こしはうちで全部学生にやらせます。ゼミのテーマにしちゃいますから。

吉川 学生さんも何か果実をあげなくちゃ可哀相だよな。

谷 仕事だけして、お金をろくろく払わないので、そのままそれを論文にできるようにしないと、彼らも文句言いますので、仕事ばかりさせられて。

伊藤 これだけデータがあると、多分、卒論が5個位できますよね。

吉川 ところで、アンケートはまだ追加は可能なんですか。

谷 可能です。入れればすぐ集計できます。

吉川 僕もいくつか配布しています。自分で回収していないから、持ってきたのしか今日は持ってきていないので、回収すればまだあるんです。

谷 今日、私がしたやつをコピーでもとって頂いて、ファックスで返して頂ければ構いませんので。

伊藤 アンケート用紙ですか。

谷 ええ。4月の中旬位までのものは、多分分析に入れられると思いますので、追加で入っても、全体が変わるということはないですから。

あと、何かお気づきになったことはありますか。それから、来年度のやつも何かアイデアがありましたら。

吉川 来年度は、ごく簡単に申しますと、少し範囲が広がるということですか。

谷 いや、今年度を受けて、今年度こういうことがわかったから、こういうことをやりましょう、というふうには本当はしたいんですけど、まだ今年度終わっていないので、ちょっと間口を広げて出しておいたということなんです。

河野 伊藤会長に半永久的に続けると僕は聞いているんですけど。予算も出せて。いいのができたら、もっと膨らませてと言ってもらいたいのんですけど。これだけいいものであれば、もっと膨らませてくださるかなと思ったら、前年度と同じというのは、それはもうフィックスされているんですか。

谷 はい。これ以上もらうと、もっと荷が重くなるので、頂かないでやらせて頂く(笑)。

奥田 どなたか若い方で、こういうテーマで実質作業をして頂く方がお弟子さんでいませんか。結局、自分が一人でしかできないものから。

吉川 学生でインターン的にやってくれるという、そういうチャンネルがあるのは、前にちょっとこの場で雑談的に申しましたけれども、今、慶応と早稲田の学生が、自分達で役所に押し掛けインターンをやるというNPOができていまして、つまり、彼らはそもそもNPOというのは、大学の学生課を通してやるのか、あるいは受ける方も、役所の人事部が通すとか、そういう性格のものではない。確かにそうなんです。

アメリカですと、どこかの課長さんが自分でひょいと連れてきちゃうような、それが本来のインターンでして、日本のインターンというのは、非常に制度化されていまして、ボランティアなものというより、どっちかという、単位が……であるとか、役所はまた労働力資源という、ちょっとそういう意味では違うというので、その学生さん達は自分達でNP0をつくって、自分が人材派遣をやるというようなことをやっています。

それで、私共の市政調査会も、受託でアンケートをやったりとなると、一遍に集まるものですから、時々使っていて、彼らも私共のような研究機関だったら一石二鳥だということで、自分達も勉強ができて、かつ、単位取得も認定される機関なんですね。そういう意味では、そういう人達でよければ、慶応と早稲田の学生が殆どなんですから、テンポラリーにこういうのを手伝うというのは可能で、声を掛ければすぐにでも飛んできます。

谷 手足ではなくて、頭の部分で手伝ってくれる人が欲しいんです。手足はいるんですけど。これこれやりなさい、ああやりなさいと言えば、その通りやるのはいるんですね。

吉川 つまり、安全というテーマの…。

谷 例えば、こういう集計表を考えてくれるような、学生に考えさせても駄目ですからね。集計表をつくって、入れなさいと言えば入れますけどね。

吉川 僕のところに来ているのは、そういうところもある程度やってもらっていますけど。大体、学生と修士ぐらいに行っている人が、つまり、早稲田の政経が多いですね。それから、慶応の法学部と経済学部、このへんの人が多いですね。

谷 メンバー的にもう1名位、インタビューをしてくれる、その位のことができる位の…。

吉川 インタビューができる位の感じですか。

谷 というのは、スケジュールに縛られてしまうので。皆さん忙しいしね。

吉川 研究員クラスでないといけませんね。

伊藤 こういうのにやはり興味を持っている人がいいですね。私は日曜日でしたらお付き合いできますから、例えば、吉川さんの方の一室を使わせてもらって、月一回位集まって、これを研究会という形にして、次までにこういうことを調べてこようとか、こういうデータベースを分析してみようとか、そういうようなことを逆にやりたいと思っているんです。本当は私は谷さんのところの学生さんと、もうちょっと一緒にコミュニケーションをとってやりたいのですが、何せちょっと距離がありますからね。

谷 今度、担当をきちっと決めるから、一回東京に連れてきますよ。一度顔を見ておくと電話も直接できるし。

伊藤 これの最終集計の時は、それをやらないといけないかなと思っているんです。

吉川 例えば民間コンサルタントをやっているながら、ボランティアにこういうことに関心があるからやりたいというような、例えば何とか総研に今いるけれども、仕事は別にボランティアに色々やっている。そういう人がいますよね。

谷 そういうのが一番いいですね。

伊藤 私みたいな立場ですよ。仕事はこういうことをやっているわけではないので。だから、いいと思います。やはり興味がある人の方が一番いいと思います。

谷 都市の安全とか防犯とかに主張を持っている人は、今までは非常に少なかったですよ。だから非常に変わった人ですよ。

吉川 だけど最も先端的なことをやっていた。

谷 伊藤さんは15年位前からそういう研究をやっていた。私も当時は物好きな人だなと思っていたけど、今になって見ると、先見の明があったなと。

伊藤 本当はそうやってほしくないために研究していたんです。

谷 すべての研究者は、自分の仕事なくなるために研究しているんですよ。あと、世論調査は吉川さんがおっしゃったのではなかったでしたか。総務庁の話。

吉川 僕は余り記憶がないんですが、何の世論調査でしたか。

谷 安全に対する国民の意識調査みたいな。あれは検索しても出てこなかったんです。

吉川 単独でやっているのではなくて、経年的なデータがとれるという意味で僕はお話ししたと思うんです。そうすると、総務省でずっと系統的にやっている調査の中の項目にそれがあるという…。

谷 何という調査ですか。

吉川 例えば、「国民生活に関する世論調査」とか、そういう比較的有名なやつの中の項目なんです。そのまた東京版というのがあって、「都市生活に関する世論調査」というのがあって、それは本当はかなり細分化して、都市生活の中の安全というパーツが必ずあって、ずっと過去 20 年位とっているものがあるんです。それは都庁の方です。そちらは物凄く詳しいですね、東京だけに関しては。

谷 どのぐらいの頻度で、いつからやっているんですか。

吉川 毎年やっていますよ。年に一回やっていて、過去 20 年か 30 年やっています。

谷 それはいいな。

吉川 それは非常に役に立ちます。

伊藤 それはどこに。

吉川 うちにも置いてあると思いますが、都庁の資料室にあります。都市生活に関する世論調査です。

谷 それをちょっと調べて頂けますか。データベースにはなっているんですか。

吉川 データベースになっているかも知れない。もしそれだったら、僕と一緒に行って、紙ベースでないものを取り出すように一緒にやりますよ。

谷 入力はこちらでやりますので。

伊藤 それが目次で言う前段の方に入る部分ですね。

谷 安全意識がどんどん変わってきているということが言えるという。

吉川 それは、都民から見て、色々な課題の中の優先度の高さというのは時代によって変わるでしょう。住宅が先に出たり、物価が出たり、その中で見ても、単純な話ですけど、都民の意識にランキングがどう変わるかというのは面白いですし、それをまた分割して、年齢層、世代、場所、東京の中で幾つか分類する。そういうのも出るんです。

谷 それでは、よろしいでしょうか。どうも有難うございました。